



こもろ映画祭副実行委員長  
涌井 康平さん (慶應義塾大学)



こもろ映画祭実行委員長  
篠原 瑞貴さん (慶應義塾大学)



## 「こもろ映画祭」を企画・運営 小諸に触れて、感じた小諸の魅力

企画から実現まで半年で、大成功を収められたのは皆さんのご協力の賜物です。春先に企画した際は我ながら名案だと思いつつも、規模の大きさに年内の実現は不可能だと思うことも。しかし、小諸の皆さんがどこまでも協力してくださったことにより、実現に至りました。ここまでたくさんの人の優しさに触れることは初めてでした。もはや小諸は私の心の故郷です。

各大学と小諸の皆さんには密に協力して作品を作っていました。映画制作には多々苦勞が伴いますが、各大学がそれらを乗り越えた結果、小諸の皆さんとの間に固い絆が生まれたと聞きました。さらに、ある撮影チームでは当映画祭とは関係ない次回作で再び小諸の方に出演して頂くことが決定したそうです。当映画祭を通じてたくさんの人と人との繋がりが生まれたと感じております。

小諸の魅力とは何か、関東の学生たちから見た小諸がそれぞれ違うように、我々に小諸について語ってくださったたくさんの方々一人ひとりに違う小諸の魅力があり、ストーリーがありました。地理、歴史、文化、語り尽くせないその「てんこ盛りさ」こそが小諸であり、小諸の魅力であると私は思います。

ですので、こもろ映画のネタは尽きません。これから作られるこもろ映画にどうかご期待ください!!

映画祭を半年で0からつくるのは大変でしたが、小諸の自然の豊かさ、人の暖かさ、平和で穏やかな雰囲気魅了され、自分にとって癒しとなる大切な土地になりました。これからも映画祭に関係なく、小諸に来たいと思います。小諸だけでなく、地方の良さに気づくとともに、自分の住む街にも良さがあるのではないかと思います。

小諸には、首都圏の学生は思わず写真に撮りたくなる美しい自然風景が多く、小諸市民の温かい人柄に触れ、また来たいと思った人が多かったと感じています。市民の皆様には市内に美しい風景があること、首都圏の学生による新鮮な小諸市の見方があることを知っていただけたと思います。両者ともに小諸市の魅力を発見し、未来の可能性を感じる機会になったと感じています。

小諸は、高速バスで2時間半という意外な近さと、自然が豊かで色もあざやかであること、そして何よりも市民の方たちは見ず知らずの私たちにみんな温かく、いい人です。近所付き合いがとても積極的で、知り合い同士が多く、雰囲気も穏やかで、私の住む街とは全く違う世界にも感じます。すべてが新鮮で、いい意味でカルチャーショックを受けました。